

平成27年度 箕面市上下水道事業
経営改革プラン進捗状況評価書



平成27年（2015年）11月
箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会

箕面市上下水道事業経営改革プランの進捗状況の評価について

1 はじめに

箕面市上下水道事業経営改革プラン（以下「経営改革プラン」といいます。）は、箕面市の上下水道事業の経営改革を推進するため、平成24年2月に作成されました。そのめざす姿は

①料金（使用料）を値上げしない

②施設・管路の耐震化・更新事業を着実に実施するための資金を確保する。とされています。

経営改革プランの進捗状況については、年1回審議会にて評価をすることとなっており、評価を行いました。

2 評価の内容及び用いる数値

評価の内容は、水道事業・公共下水道事業の

◇収益的収支

◇資本的収支

◇企業債発行額・企業債償還額・企業債残高

など経営改革プランに記載している主要項目とします。

用いる数値は、平成26年度・平成25年度それぞれの決算数値と経営改革プラン数値です。

主要な数値は上下水道局においてとりまとめた「箕面市上下水道事業経営改革プラン進捗状況（平成25年度～平成26年度）（別添）」のとおりです。

3 水道事業

■収益的収支

(1) 収入

水道事業収益において、平成25年度決算数値は、平成24年度決算数値と比較すると、約3,586万円の減少となっていますが、プラン数値と比較すると約2,692万円多くなっています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると約3,187万円少なく、平成25年度決算数値と比較すると約1億2,483万円減少しています。

水道事業収益のうち、水道料金については、平成25年度決算数値は、平成24年度決算数値と比較すると、約956万円の増加となっていますが、プラン数値と比較すると約534万円少なくなっています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると約4,061万円少なく、平成25年度決算数値と比較すると約4,106万円減少しています。平成26年度決算数値が減少している要因としては、給水人口は増加しているにもかかわらず、年間有収水量はプラン数値との比較では微増、平成25年度決算数値との比較においては減少しており、一人当たりの有収水量が減少していることから、節水機器の普及などにより、少量使用者が増加し、有収水量のうち、単価の小さいランクの水量の占める割合が増えているものと考えられます。

また、納付金については、平成24年度決算数値と比較すると約6,625万円減少していますが、プラン数値と比較すると約739万円多くなっています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると約128万円少なく、平成25年度決算数値と比較すると約6,887万円減少しています。

評価・意見

- 水道料金については、一人当たり平均有収水量の動向を十分注視するとともに、引き続き、水道利用者の的確な捕捉・滞納対策の強化・漏水事故の削減などにより、料金収入の確保に努めてください。
- 納付金については、開発、建築の件数で左右されるため、年度ごとに増減が生じることは一定やむを得ないものですが、引き続き収入の確

保に努めてください。

(2) 費用

水道事業費用については、平成25年度決算数値は、プラン数値と比較すると約9,915万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても約278万円減少しています。また、平成26年度決算額では、平成25年度決算数値との比較においては、約3,869万円増加していますが、プラン数値と比較すると約1,517万円少なくなっています。

主な費用を見ると、人件費については、平成25年度決算数値は、平成24年度決算数値と比較すると約368万円増加していますが、プラン数値との比較においては、約3,791万円少なくなっています。また、平成26年度決算数値は、プラン数値と比較すると約3,181万円少なく、平成25年度決算数値との比較においても約691万円減少しています。これは、再雇用者の活用等により、人件費削減に努めたことによるものです。

次に、受水費については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると約5,844万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても2,396万円減少しています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると約6,303万円少なく、平成25年度決算数値との比較においても約612万円減少しています。これは、一人当たりの有収水量の減少により、大阪広域水道企業団からの受水量が減少したことによるものです。

次に、減価償却費については、平成25年度決算数値では、平成24年度決算数値と比較するとほぼ横ばいですが、プラン数値と比較すると約2,031万円少なくなっています。また、平成26年度決算数値は、プラン数値と比較すると約4,221万円少なく、平成25年度決算数値との比較においても約1,709万円減少しています。

次に、支払利息については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると約418万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても約688万円減少しています。また、平成26年度決算数値は、プラン数値と比較すると約613万円少なく、平成25年度決算数値との比較に

においても約779万円減少しています。

なお、その他の経費については、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると約1億2,802万円多く、平成25年度決算数値との比較においても約7,660万円増加していますが、これは、不用となった土地の一般会計への所管替えに伴う特別損失の計上に伴うものです。

評価・意見

- 人件費については、既に平成24年度決算数値からプランの中間年である、平成27年度の目標数値を達成されていましたが、平成26年度には、平成27年度の目標数値との差額は、約1,600万円に達しています。
- 急激な職員の減少で、市民、事業者に対する業務および事業体としての技術力維持に支障が出ないように、引き続き、業務の見直しやバランスのとれた職員配置など体制強化の工夫をしてください。
- 支払利息については、経営改革プランで定めている「企業債を借り入れる場合、借入額は元金償還額の範囲内とする」を守り、元金を減らし支払利息の軽減をさらに図ってください。

(3) 損益

損益については、平成25年度決算数値では、平成24年度決算数値と比較すると、約3,309万円の減収となっていますが、利益額は約3億674万円を確保し、プラン数値と比較すると約1億2,606万円上回っています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると、約1億6,352万円の減収で、プラン数値と比較においても約1,670万円下回っています。

評価・意見

- 平成26年度決算数値が、プラン数値、平成25年度決算数値ともに下回っているのは、土地の所管替えに伴う特別損失の計上という単年度限りの要因もありますが、水道料金の減少の影響も受けています。費用面ではプラン数値の目標を達成しているものの、収入の低下によ

って、損益がプラン数値を下回っていることから、収入の確保に努めるとともに、さらなる費用の削減に取り組み、利益の確保に努めてください。

(4) 供給単価・給水原価・料金回収率

供給単価については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると2.39円、平成24年度決算数値と比較すると、1.24円低下しています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると3.42円、平成25年度決算数値と比較すると、1.27円低下しています。このことから、有収水量のうち、単価の小さい水量が占める割合が増えていることがわかります。

給水原価については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると10.48円、平成24年度決算数値と比較すると、3.38円低下しています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると10.69円、平成25年度決算数値と比較すると、3.32円低下しています。このことから、経営改革プランの計画を上回るスピードで経費削減を達成できていることがわかります。

料金回収率については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると4.48ポイント、平成24年度決算数値と比較すると、1.23ポイント上昇しています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると4.16ポイント、平成25年度決算数値と比較すると、1.22ポイント上昇しています。

評価・意見

- 供給単価の低下は、水道料金収入の減少によるものです。供給単価を上げるためには、給水収益の増加が必要です。滞納対策の強化など、給水収益の確保に努めてください。
- 給水原価については、大幅な経費削減に努められ、順調に減少していますが、特に、人員については、先に述べたとおり市民、事業者に対する業務および事業体としての技術力維持に支障がでないよう、業務の見直しやバランスのとれた職員配置など体制強化に努めてください。

○料金回収率については、100%を目指し、給水収益の確保及びさらなる経費の削減を着実に進めてください。

■資本的収支

建設改良事業について

平成25年度、平成26年度に実施された主な建設改良事業については、以下のとおりです。経営改革プランにおいて、平成26年度までに予定していた建設改良事業については、概ね実施することができました。

【平成25年度】

区分	工事名	施行内容
拡張工事	坊島水系配水幹線敷設工事	φ300mm L=257.0m
	坊島送水管敷設工事	φ450mm L=89.0m
改良工事	栗生外院4丁目地内ほか配水管改良工事	φ75mm～150mm L=1,388.4m
	西小路1丁目地内ほか配水管改良工事	φ75mm～250mm L=692.6m
	箕面2丁目地内配水管改良工事	φ75mm～100mm L=826.9m
	箕面浄水場膜モジュール取替工事	膜モジュール(1ユニット分) 18本
	桜ヶ丘浄水場原水ろ過ポンプ取替工事	原水ろ過ポンプ(7.5kw) 4台

【平成26年度】

区分	工事名	施行内容
拡張工事	国際文化公園都市特定土地区画整理事業に伴う高区配水地ほか建設工事	配水池築造工事 V=500 m ³ 他

	国際文化公園都市特定土地 区画整理事業に伴う高区配 水地ほか電気機械設備工事	彩都高区・中区配水地電気 計装設備工事 一式 彩都高区・中区配水地機械 設備工事 一式
改良工事	栗生新家5丁目地内ほか配 水管改良工事	φ 75 mm～300 mm L=1,253.6m
	栗生新家3丁目地内配水管 改良工事	φ 75 mm～150 mm L=487.0m
	桜ヶ丘2丁目地内ほか配水 管改良工事	φ 50 mm～200 mm L=516.2m
	栗生間谷西7丁目地内ほか 配水管改良工事	φ 50 mm～250 mm L=375.1m
	新家北受水場高压受変電設 備更新工事	引込盤他 一式

評価・意見

今後は、平成27年3月に策定された「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」に基づき、建設改良事業が計画的にすすめられるよう体制の整備を図るとともに、効率的な設計、施工に努めてください。

■その他

- 経営改革プランでは、企業債借入額は企業債償還金額の範囲内としています。平成25年度決算数値では、企業債借入額は3,600万円、企業債償還金額は約3億13万円、平成26年度決算数値では、企業債借入額は1億円、企業債償還金額は約3億1,257万円と、経営改革プランで示されたとおり借入額は償還金額の範囲内となっています。
- 企業債残高について、決算数値をプラン数値と比較すると、平成25年度決算数値では、1億5,799万円、平成26年度決算数値では、9,167万円、プラン数値を下回っており、企業債残高は着実に減少しています。

評価・意見

企業債借入額は、企業債償還金額の範囲内であり適切です。また、企業債残高は着実に減少しています。引き続き企業債残高の削減に努めてください。

4 公共下水道事業

■収益的収支

(1) 収入

下水道事業収益において、平成25年度決算数値は、プラン数値と比較すると約7,033万円多く、平成24年度決算数値と比較すると、約1,164万円の増加となっています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると約415万円減少していますが、プラン数値と比較すると約7,325万円多くなっています。

下水道事業収益のうち、下水道使用料については、平成25年度決算数値は、プラン数値と比較すると約1,890万円多く、平成24年度決算数値と比較すると、約1,844万円の増加となっています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると約972万円減少していますが、プラン数値と比較すると約1,661万円多くなっています。

平成26年度決算数値が減少している要因としては、水道料金の場合と同様、一人当たりの有収汚水量が減少していることから、少量使用者が増加し、有収汚水量のうち、単価の小さいランクの水量の占める割合が増えているものと考えられます。

評価・意見

下水道使用料においても、一人当たり平均有収汚水量の動向を十分注視するとともに、引き続き、下水道使用者の的確な捕捉・滞納対策の強化などにより、収入の確保に努めてください。

(2) 費用

下水道事業費用については、平成25年度決算数値は、プラン数値と比較

すると約6,918万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても約387万円減少しています。また、平成26年度決算額では、平成25年度決算数値との比較においては、約3,983万円増加していますが、プラン数値と比較すると約1,866万円少なくなっています。

主な費用を見ると、人件費については、平成25年度決算数値は、プラン数値との比較においては、約1,415万円少なく、平成24年度決算数値と比較すると約489万円減少しています。また、平成26年度決算数値は、平成25年度決算数値と比較すると、約953万円増加していますが、プラン数値と比較すると約462万円少なくなっています。

次に、流域下水道負担金については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると約3,059万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても345万円減少しています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値との比較においては約1,541万円増加していますが、プラン数値と比較すると約1,691万円少なくなっています。

次に、減価償却費については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると約49万円少なく、平成24年度決算数値と比較すると約486万円多くなっています。また、平成26年度決算数値は、プラン数値と比較すると約330万円多く、平成25年度決算数値との比較においては約986万円増加しています。

次に、支払利息については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると約1,966万円少なく、平成24年度決算数値との比較においても約1,123万円減少しています。また、平成26年度決算数値は、プラン数値と比較すると約2,656万円少なく、平成25年度決算数値との比較においても約1,265万円減少しています。

評価・意見

○人件費については、プラン数値の範囲内を維持していますが、年度によって増減がみられます。今後、管渠の更新事業を着実に進めていくために事業量に見合った人員の確保等、事業執行と人員配置についての適切なバランスを維持するよう努めてください。

○流域下水道負担金は、下水道処理施設を利用する自治体の汚水排水量な

どによる按分の負担であるため、年度ごとに増減することはやむを得ない側面があります。流域下水道全体での経費削減については、流域下水道事業体に対しコスト削減努力を求めてください。また、大阪府流域下水道事業においては、平成30年度を目途に公営企業会計の導入がすすめられていることから、情報収集とともに状況の把握に努めてください。

○支払利息については、見込みどおり減少しています。引き続き、経営改革プランで定めている「企業債を借り入れる場合、借入額は元金償還額の範囲内とする」を守り、元金を減らし支払利息の軽減をさらに図ってください。

(3) 純損益

純損益については、平成25年度決算数値では、平成24年度決算数値と比較すると、約1,550万円の増収で、利益額は約2億7,639万円を確保し、プラン数値と比較すると約1億3,951万円上回っています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると、約4,399万円の減収ですが、利益額は約2億3,240万円を確保し、プラン数値と比較においては約9,191万円上回っています。

評価・意見

さらなる収入の確保及び経費の削減に努め、収益増を図ってください。

(4) 使用料単価・処理原価・経費回収率

使用料単価については、平成25年度決算数値では、平成24年度決算数値と比較すると、0.31円増加していますが、プラン数値と比較すると0.44円少なくなっています。また、平成26年度決算数値では、プラン数値と比較すると0.23円上回り、平成25年度決算数値と比較すると、0.25円増加しています。

処理原価については、プラン数値と比較すると5.99円少なく、平成24年度決算数値と比較すると、0.50円減少しています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると、3.44円

増加していますが、プラン数値と比較すると1.47円下回っています。

経費回収率については、平成25年度決算数値では、プラン数値と比較すると6.15ポイント、平成24年度決算数値と比較すると、0.90ポイント上昇しています。また、平成26年度決算数値では、平成25年度決算数値と比較すると、3.63ポイント低下していますが、プラン数値と比較すると1.80ポイント上回っています。

評価・意見

- 使用料単価については、概ねプラン数値を上回っていますが、平成26年度決算数値は前年度決算数値を下回っています。水道使用料と同様、下水道使用者の的確な捕捉・滞納対策の強化などにより、使用料収入の確保に努めてください。
- 処理原価については、プラン数値以下を維持していますが、平成26年度決算数値は前年度決算数値を上回っています。引き続き経費の削減に努めてください。
- 経費回収率については、平成25年度112.26%、平成26年度108.63%と良好な水準を維持しているといえます。今後、使用料の改定を予定していることから、その影響を慎重に見極めながら、引き続き、経費回収率の維持に努めてください。

■資本的収支

建設改良事業について

平成25年度、平成26年度に実施された主な建設改良事業については、以下のとおりです。経営改革プランにおいて、平成26年度までに予定していた建設改良事業については、概ね実施することができました。

【平成25年度】

区分	工事名	施行内容
汚水	公共下水道(萱野排水区)瀬川萱野汚水幹線他地震対策緊急整備	φ300~700mm L=675m

	工事	
	公共下水道(勝尾寺川排水区)瀬川萱野污水管渠築造工事	φ 200 mm L=203m
雨水	(箕面排水区)市道箕面土地5号線雨水管渠築造工事	φ 600 mm L=12m

【平成26年度】

区分	工事名	施行内容
汚水	公共下水道(桜井排水区長寿命化)管路更生工事	φ 250 mm L=1,142m
	マンホールポンプ非常通報装置更新工事	非常用通報装置取替他
雨水	公共下水道(桜井排水区長寿命化)市道国道南2号線雨水管渠築造工事	φ 400~500 mm L=145m

評価・意見

今後、平成27年3月に策定された「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」に基づき、汚水・雨水とも、建設改良事業が計画的にすすめられるよう体制の整備を図るとともに、効率的な設計、施工に努めてください。また、事業実施にあたっては、社会資本整備総合交付金の確保を積極的に進めてください。

■その他

○経営改革プランでは、企業債借入額は企業債償還金額の範囲内としています。平成25年度決算数値では、企業債借入額は1億6,000万円、企業債償還金額は約3億9,338万円、平成26年度決算数値では、企業債借入額は約1億3,920万円、企業債償還金額は約4億208万円と、経営改革プランで示されたとおり借入額は償還金額の範囲内となっています。

- 企業債残高について、決算数値をプラン数値と比較すると、平成25年度決算数値では、約4億8,311万円、平成26年度決算数値では、6億905万円、プラン数値を下回っており、企業債残高は着実に減少しています。

評価・意見

企業債借入額は企業債償還金額の範囲内であり適切です。企業債残高は着実に減少しています。引き続き経営改革プランで定めている「企業債を借り入れる場合、借入額は元金償還額の範囲内とする」を守り、企業債残高の削減に努めてください。

5 その他個別意見

上記評価以外に評価委員としての個別意見を申し上げます。

- 下水道事業については、雨水公費・汚水私費の原則から、収支については、汚水・雨水を区分して経営・事業の執行・分析・評価をしていくことが必要と考えます。
- 水道・下水道事業は、技術の継承が必要です。職員OBを活用するという考え方もありますが、将来にわたり持続可能な方法とは限りません。今後、今の技術レベルを維持し続けていくために、長期的視点をもって人事配置を行うよう努めてください。
- 水道事業における口径別納付金は、給水装置の新設やメーター口径を大きくしようとする方に、水道施設の整備費の一部を負担していただくという趣旨からも、本来は、将来の施設整備などに必要な資本としてストックしていくべきものと考えます。また、地方公営企業会計基準の見直しにより、償却資産の取得や改良の際に充当した補助金等については、「長期前受金」として負債計上したうえで、営業外収益に各種の「長期前受金戻入」を設け、減価償却見合い分を順次収益化することとなっていますが、この「長期前受金戻入」は実際の資金を伴わない収入であることなども踏まえ、堅実な経営分析を行い、将来の更新需要のための資金を着実に確保できるよう健全経営に努めてく

ださい。

○施設、管路などの修繕は、定期的にやらなければなりません。そのために平成27年3月に策定された「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」においては、修繕料の推計も含む財政収支見通しが示されていますが、実際に修繕が必要となる箇所や必要経費を適時適切に把握し、的確に進捗管理を行ってください。

○箕面市の水道料金は高いといわれているそうですが、利用者が支払っている料金（使用料）は、水道料金と下水道使用料を合算した額です。大阪府下自治体を見ても、個別の自治体ごとに水道料金、下水道使用料の高低があります。箕面市は水道料金と下水道使用料をあわせた額は30m³では8,023円で、府下で33市中21番目です。水道料金と下水道使用料を合算した額の水準は高くないので、このようなことをもっと利用者にPRをしていくべきと思います。

6 おわりに

今回は平成25年度決算、平成26年度決算について、プラン数値及び前年度決算数値と比較し評価しました。総合的な評価として改革は、概ね順調に進んでおり、水道事業、下水道事業いずれにおいても、現段階では、収入及び経費回収率とも良好な経営環境にあると言えます。

今後は、「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」に基づき、施設・管路の計画的かつ効果的・効率的な整備を図るとともに、収益動向の的確な把握に努め、財政収支の状況を常に把握し、健全経営を堅持してください。

特に下水道事業においては、平成28年度から使用料の値下げを予定されていることとあわせ、流域下水道負担金の増加も懸念されます。将来の投資見通しを踏まえ、今後とも良好な経営環境を維持できるよう努めてください。

箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会

箕面市上下水道事業経営改革プラン評価委員

近畿大学経営学部教授

吉田 忠彦

大阪工業大学工学部環境工学科准教授

笠原 伸介

兵庫県立大学大学院経営研究科教授

陳 琦

(別添)

**箕面市上下水道事業経営改革プラン進捗状況
(平成25年度～平成26年度)**



**箕面市上下水道局
平成27年11月**

箕面市上下水道事業経営改革プランの概要

1 経営改革プランで設定した「上下水道事業のめざす姿・目標」

	経営改革プラン	
	めざす姿	目標
上水道	<ul style="list-style-type: none"> ○料金(使用料)を値上げしない。 ○施設・管路の耐震化・更新事業を着実に実施するための資金を確保する。 	現行料金の範囲内で ○料金回収率100%を目指す。 中間目標:H27 98% 最終目標:H32 100% ○建設改良費を6億円確保する。
下水道		○経費回収率100%を堅持する。 ○建設改良費(流域下水道負担金を含む)を10億円確保する。

2 経営改革プランで設定した「今後の進め方」

【上水道事業】

- 平成23年度において、今後30年から40年先の水道施設の姿を見据えた「水道施設整備構想基本構想」を策定しました。平成24年度はこの構想にもとづく「基本計画」を策定します。
- 平成25年度、26年度において施設・管路の更新計画を策定し、現在6億円と設定している建設改良費を精査します。
- 精査結果に基づき、投資と収益のバランスを勘案しながら、さらなる利用者への還元策や経営体制について検討します。

【下水道事業】

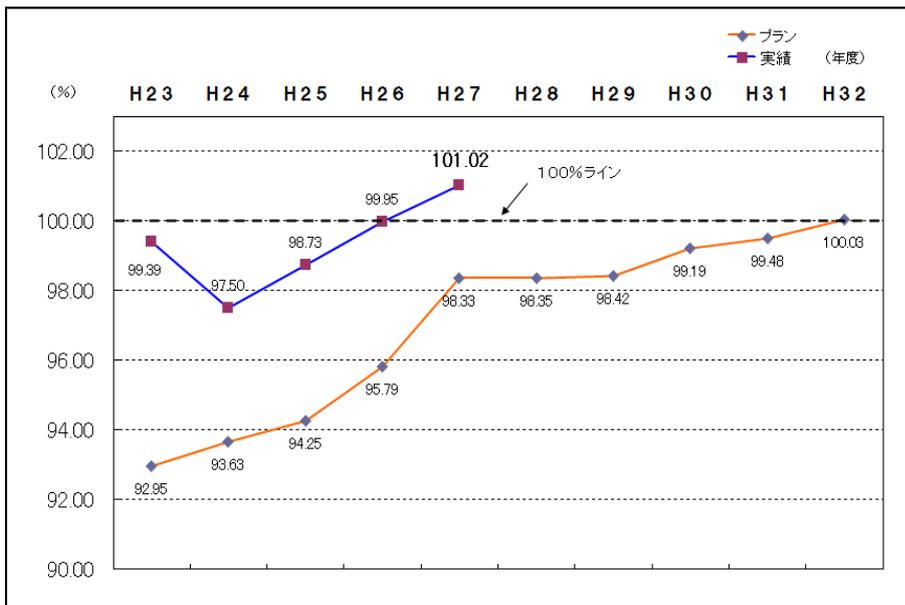
- 平成24年度、25年度において長寿命化計画を策定し、現在10億円と設定している建設改良費を精査します。
- 精査結果に基づき、経費回収率を105%から100%に見直すこととあわせて、料金の値下げを検討します。

箕面市上下水道事業経営改革プランの進捗状況

水道事業

H23～H26 決算数値（確定）
H27 予算数値

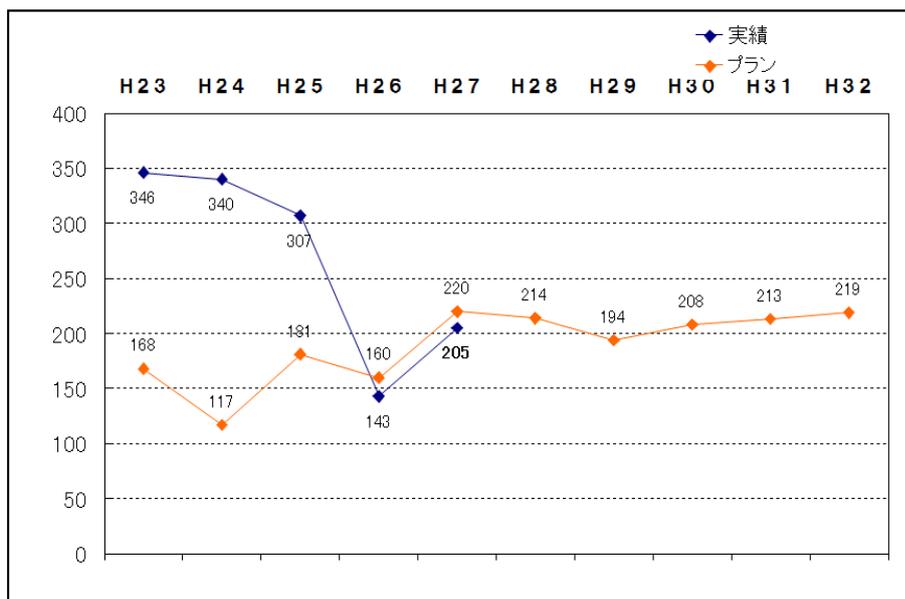
料金回収率



○平成25年度決算数値は、98.73%で、プラン数値と比較すると4.48ポイント高くなっています。また、平成26年度決算数値は、99.95%で、プラン数値と比較すると4.16ポイント高くなっています。

○なお、平成27年度当初予算数値は、101.02%となり、プランの目標値である100%を達成しています。

損益

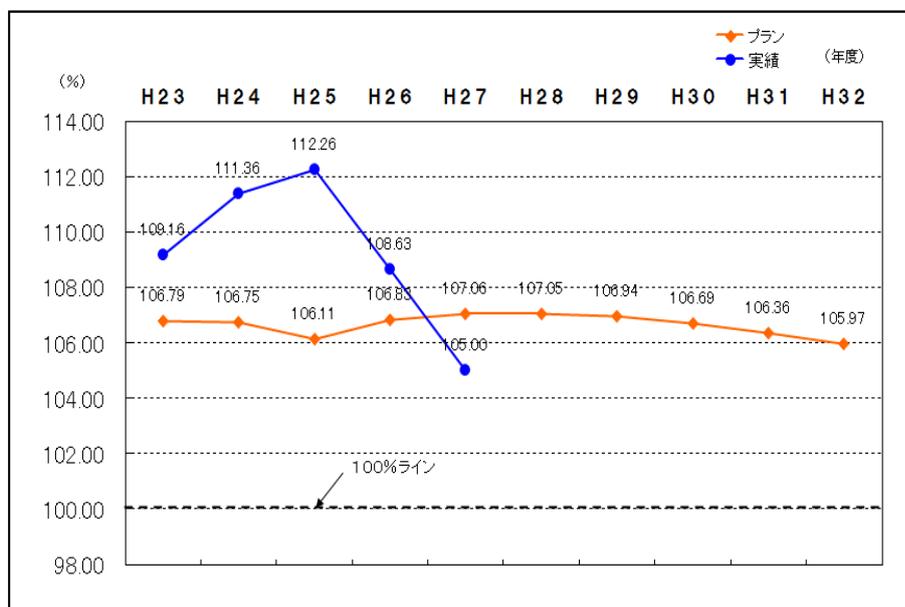


○平成25年度決算数値は、約307百万円を確保し、プラン数値と比較すると約126百万円上回っています。また、平成26年度決算数値は、約143百万円を確保し、プラン数値と比較すると約17百万円下回っています。

下水道事業

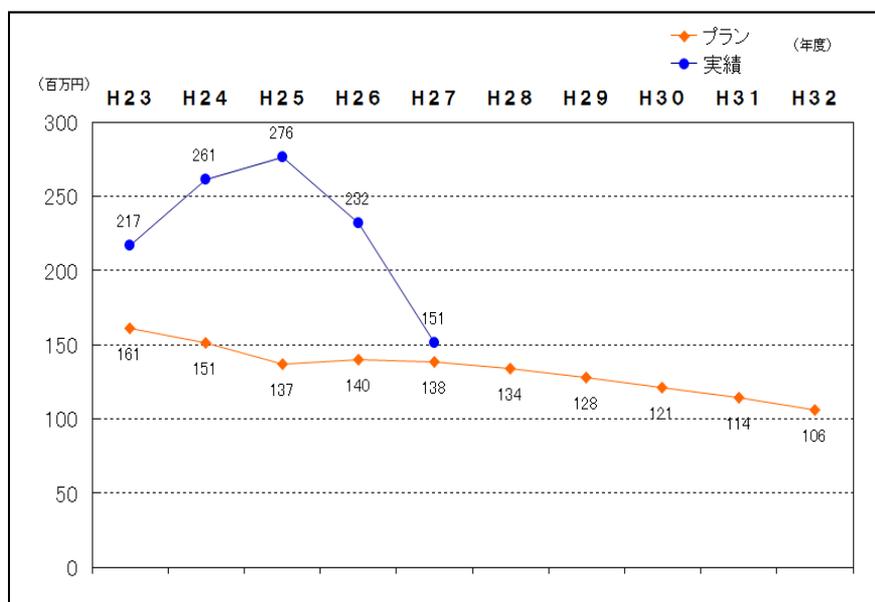
H23～H26 決算数値（確定）
H27 予算数値

経費回収率



- 平成25年度決算数値は、112.26%で、プラン数値と比較すると6.15ポイント高くなっています。また、平成26年度決算数値は、108.63%で、プラン数値と比較すると1.80ポイント高くなっています。
- いずれも、プランの目標である経費回収率 100%以上を堅持しています。

損益



- 平成25年度決算数値は、約276百万円を確保し、プラン数値と比較すると約139百万円上回っています。また、平成26年度決算数値は、約232百万円を確保し、プラン数値と比較すると約92百万円上回っています。

今後の進め方

上水道・下水道共通

- 上下水道事業の経営や運営の状況については、「箕面市上下水道事業経営改革プラン」と実績との比較を通じて、検証を行ってきましたが、今後は、平成26年度に策定した「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」をもとに、財政収支や更新事業に関する計画と実績との比較検証を行っていきます。
- 同計画の進捗状況の評価にあたっては、「箕面市上下水道事業経営改革プラン」と同様「箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会」において評価委員を指名し、同委員を中心として進めたいと考えています。

水道事業

- 給水収益の確保を図るとともに、経費の削減及び事務の効率化に努め、料金回収率100%以上の維持をめざします。
- 「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」にもとづく老朽管・施設の更新・耐震化の財源を維持できるよう更なる利益の確保に努めます。

下水道事業

- 平成28年度から下水道使用料の値下げを予定していますが、値下げ後も引き続き、下水道使用料の収納率向上・経費の削減に努め、経費回収率の100%以上を堅持します。
- 「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」にもとづく管路の長寿命化・耐震化の財源を維持できるよう更なる利益の確保に努めます。

経営改革プラン評価に関する主要項目とその数値

水道事業

■収支関係

(単位:千円)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度	
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン	
水道料金	2,352,655	2,336,384	2,345,941	2,351,282	-5,341	9,557	2,304,882	2,345,495	-40,613	-41,059	2,339,653	2,346,356	-6,703	2,346,356	
納付金	219,900	281,140	214,890	207,500	7,390	-66,250	146,020	147,303	-1,283	-68,870	97,340	143,913	-46,573	102,693	
その他	252,441	148,373	169,204	144,337	24,867	20,831	154,306	144,275	10,031	-14,898	153,679	144,250	9,429	144,250	
収入合計	a	2,824,996	2,765,897	2,730,035	2,703,119	26,916	-35,862	2,605,208	2,637,073	-31,865	-124,827	2,590,672	2,634,519	-43,847	2,593,299
人件費	410,093	364,912	368,590	406,500	-37,910	3,678	361,685	393,500	-31,815	-6,905	284,716	378,000	-93,284	342,000	
受水費	963,191	961,924	937,962	996,405	-58,443	-23,962	931,840	994,869	-63,029	-6,122	956,908	995,847	-38,939	995,847	
減価償却費	421,112	413,597	413,602	433,918	-20,316	5	396,506	438,716	-42,210	-17,096	405,073	443,841	-38,768	437,504	
支払利息	116,093	101,281	94,406	98,586	-4,180	-6,875	86,616	92,748	-6,132	-7,790	81,017	84,717	-3,700	62,050	
その他	568,604	584,356	608,734	587,035	21,699	24,378	685,337	557,317	128,020	76,603	658,352	512,396	145,956	536,875	
費用合計	b	2,479,093	2,426,070	2,423,294	2,522,444	-99,150	-2,776	2,461,984	2,477,150	-15,166	38,690	2,386,066	2,414,801	-28,735	2,374,276
損益	a-b	345,903	339,827	306,741	180,675	126,066	-33,086	143,224	159,923	-16,699	-163,517	204,606	219,718	-15,112	219,023

※地方公営企業法改正により、平成26年度から会計制度が変更されていますが、経営改革プランとの比較検証のため、プラン策定時の科目区分にあわせて計上しています。

■その他項目

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度	
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン	
年間有収水量(千m ³)	14,070	14,031	14,194	14,024	170	163	14,054	14,010	44	-140	14,284	14,025	259	14,025	
供給単価(円)※	c	167.21	166.51	165.27	167.66	-2.39	-1.24	164.00	167.42	-3.42	-1.27	163.79	167.30	-3.51	167.30
給水原価(円)	d	168.24	170.78	167.40	177.88	-10.48	-3.38	164.08	174.77	-10.69	-3.32	162.14	170.14	-8.00	167.25
料金回収率(%)	$\frac{c}{d} \times 100$	99.39	97.50	98.73	94.25	4.48	1.23	99.95	95.79	4.16	1.22	101.02	98.33	2.69	100.03

※ 供給単価＝水道料金(メーター使用料を除く)／年間有収水量

■年度末資金残高・企業債残高

(単位:千円)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン
企業債借入額	27,600	133,400	36,000	104,000	-68,000	-97,400	100,000	28,000	72,000	64,000	250,000	79,000	171,000	200,000
企業債償還額	410,684	289,677	300,131	298,137	1,994	10,454	312,566	306,893	5,673	12,435	324,244	316,966	7,278	292,900
企業債残高	4,022,964	3,866,687	3,602,556	3,760,548	-157,992	-264,131	3,389,990	3,481,655	-91,665	-212,566	3,315,746	3,243,689	72,057	2,580,509

経営改革プラン評価に関する主要項目とその数値

下水道事業

■収支関係

(単位:千円)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度	
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン	
下水道使用料	1,513,458	1,516,112	1,534,548	1,515,648	18,900	18,436	1,524,824	1,508,210	16,614	-9,724	1,552,142	1,506,701	45,441	1,499,182	
その他	271,982	289,466	282,667	231,238	51,429	-6,799	288,237	231,601	56,636	5,570	264,695	224,517	40,178	205,057	
収入合計	a	1,785,440	1,805,578	1,817,215	1,746,886	70,329	11,637	1,813,061	1,739,811	73,250	-4,154	1,816,837	1,731,218	85,619	1,704,239
人件費	69,462	63,637	58,751	72,900	-14,149	-4,886	68,284	72,900	-4,616	9,533	73,583	72,900	683	72,900	
流域下水道負担金	497,477	482,852	479,406	510,000	-30,594	-3,446	494,812	511,000	-16,188	15,406	521,268	512,000	9,268	517,000	
減価償却費	594,042	599,705	604,568	605,057	-489	4,863	614,424	611,122	3,302	9,856	612,492	617,900	-5,408	672,680	
支払利息	175,129	165,720	154,494	174,153	-19,659	-11,226	141,840	168,401	-26,561	-12,654	131,170	154,625	-23,455	102,822	
その他	232,052	232,778	243,608	247,900	-4,292	10,830	261,301	235,900	25,401	17,693	327,279	235,400	91,879	232,900	
費用合計	b	1,568,162	1,544,692	1,540,827	1,610,010	-69,183	-3,865	1,580,661	1,599,323	-18,662	39,834	1,665,792	1,592,825	72,967	1,598,302
損益	a-b	217,278	260,886	276,388	136,876	139,512	15,502	232,400	140,488	91,912	-43,988	151,045	138,393	12,652	105,937

※地方公営企業法改正により、平成26年度から会計制度が変更されていますが、経営改革プランとの比較検証のため、プラン策定時の科目区分にあわせて計上しています。

■その他項目

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度	
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン	
年間有収汚水量(千m ³)	14,075	14,084	14,214	13,982	232	130	14,091	13,967	124	-123	14,304	13,954	350	13,884	
使用料単価(円)	c	107.53	107.65	107.96	108.40	-0.44	0.31	108.21	107.98	0.23	0.25	108.51	107.98	0.53	107.98
処理原価(円)	d	98.51	96.67	96.17	102.16	-5.99	-0.50	99.61	101.08	-1.47	3.44	103.35	100.86	2.49	101.90
経費回収率(%)	c/d x100	109.16	111.36	112.26	106.11	6.15	0.90	108.63	106.83	1.80	-3.63	105.00	107.06	-2.06	105.97

■年度末資金残高・企業債残高

(単位:千円)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			平成32年度
	決算	決算①	決算②	プラン③	プランとの比較(②-③)	前年度との比較(②-①)	決算④	プラン⑤	プランとの比較(④-⑤)	前年度との比較(④-②)	予算⑤	プラン⑥	比較(⑤-⑥)	プラン
企業債借入額	243,900	234,100	160,000	258,700	-98,700	-74,100	139,200	256,100	-116,900	-4	135,200	200,000	-64,800	200,000
企業債償還額	347,409	370,843	393,384	394,049	-665	22,541	402,085	393,041	9,044	-4	415,184	389,150	26,034	298,971
企業債残高	5,943,893	5,807,150	5,573,766	6,056,872	-483,106	-233,384	5,310,881	5,919,931	-609,050	-4	5,030,897	5,730,781	-699,884	5,039,711